LUZの熊野古道案内

2007年　3月　上

3月1日　～　10日

je2luz.exblog.jp

目次

２００**7**年　**3**月

3月　１日　昔日　蒸気機関車　**3**
3月　２日　観光とは・・・獅子岩
3月　３日　かつては観光の目玉だった・・・鬼ヶ城
3月　４日　ようやく復旧、通り抜けられます　鬼ヶ城
3月　５日　**PC**整備中に付き本日休載　写真のみ
3月　６日　人間の力と自然　鬼ヶ城
3月　７日
3月　８日　番外　本日より新システムにて・・・
3月　９日　木本の春の海
3月１０日　七里御浜の春霞
3月１１日　熊野市立新鹿中学校
3月１２日　世界遺産はすごい！　石畳

2007年　03月　01日

熊野の旅　昔日　蒸気機関車　3

蒸気機関車が全国的に少なくなってゆく時代に紀勢本線は全通したのです。

蒸気機関車というやつは旅情的にはすばらしく見え、鉄道の原風景にふさわしいものです。

走るときの音も人間的というか息遣いが聞こえるようなものでした。それは当たり前かもしれません。水蒸気が巨大な肺のようなシリンダーの中に吹き込まれ、使い終わると音を立てて排気される…坂道になれば人間同様荒い息をする訳ですからね。

しかし、実際に旅をするとなると決して快適ではありませんでした。

煙とすすの襲撃は生半可なものではありませんでした。今のように空調の入った客車ではありませんから夏などは窓を開けないと蒸し風呂です。窓を閉めていても天井の通気候からもはいってきます。開けっ放しのデッキはトンネルに入れば息も出来ない状態です。

そんな中で『駅弁』を食べるのは大変なことでした。

『どこにトンネルがあるか』これを知っていることが駅弁を美味しく食べる大事な秘訣でした。

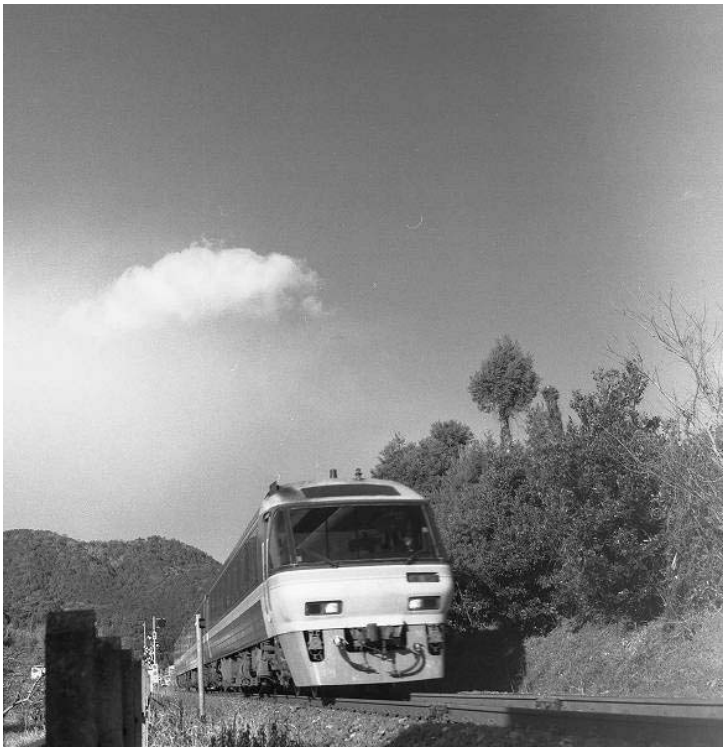
もう一つ。蒸気機関車が走っていた頃は『火事』もあったのです。

走り去る汽車は知らん顔ですが、横の山に火のついた煤煙が落ちて発火するなんてのがあったのです。

それに、『運転が難しい』『加速が悪い』『燃料と水の補給が厄介』など随分とマイナス面のある道具でしたから、消えてゆかなくてはならなかったのでしょうね。エネルギー効率も消して良くないですからね。

確かにしたの『特急南紀』のような車両の旅のほうがはるかに早くて快適です。

それでも、蒸気機関車には人をひきつけるものがありますね。



Tags:JR紀勢本線 クラシックカメラ モノクロ　　by **je2luz** | 2007-03-01 11:20 |

2007年　03月　02日

熊野の旅　観光とは・・・獅子岩

先日も触れたように、この地方の観光客の落ち込みがお役所では問題化しているようです。

しかし、この観光客と言うものは昔に比べ元々大幅に落ち込んでいたわけです。

道路が良くなり、列車も速度が速くなり随分簡単に名古屋や大阪から南紀に来られるようになりました。道路が良くなり、交通の便が良くなれば観光客が増えるなんてことは嘘八百、幻想だったのです。

レジャーなんて言葉もあまり使われなくなりましたが、この言葉が使われるような頃から、『旅』が廃れていったような気がします。つまり、安・近・短の物が増えてしまったようです。それに、海外渡航が制限されていた頃、そして１ドルが３６０円だった時代とは違い、円安だと言われる時でも１ドルが１２０円ほどになると、相対的に国内旅行が高くつくようになってしまいました。

そんな中で浮上したのが『世界遺産指定』だったのです。

まんまと指定は取り付けましたが、紀伊半島全域をカバーする広大な物です。どこへ行って良いのやら…思い立たせるのが難しいですね。

ブログ用の写真を撮りにポツポツと観光スポットに出かけますが、まともに観光客の人に出会いません。観光地の写真と言うものは人がジャマで早朝以外は非常に撮りにくいものと相場が決まっているのですが、熊野三山以外はいつでも三脚を立ててシャッターを切れます。

私の写真に人が写っていないのは、人払いをしたとか、人が切れるのを待ったとかではありません。まさに絵のように静かなのです。

『静かで良いですよ…』と、勧める事が出来ます。

ただ、獅子岩の展望台だけはそこそこ人が居ます。国道４２号線の脇で休憩にも良いのでドライブやツーリングの人が立ち寄っています。そして、携帯電話で…

しかし、ここは狭いので公衆トイレがありません。すぐ先の花の窟神社の入り口には市営の物が用意されていますが、一番たくさん立ち寄ってくれる獅子岩では『山茶郷』(サンチャゴ) という喫茶店はありますが、土産物屋も無くお金にはなりません。

よく、『観光客なんてゴミとおしっこを残してゆくだけ…』と言いますが、おしっこも残してゆきません。
でも、ゴミも少なくきれいですから良しとしましょうか・・・

Tags:熊野古道 国道４２号線 モノクロ by **je2luz** | 2007-03-02 11:54 |

2007年 03月 03日

熊野の旅　かつては観光の目玉だった・・・鬼ヶ城

今でも観光の目玉なのですが、熊野古道の世界遺産指定以来、松本峠だとか大吹峠をはじめとする峠道が宣伝され、ポイントがぼやけてしまい、お客さんも分散されてしまいました。

この地方の観光地は土産物屋が並んでいかにも観光地と言うような所はあまりありません。熊野三山といっても那智山は金毘羅さんほどではないですが、参道の両脇に土産物屋が並んでいますが、速玉大社や本宮大社の門前には門前町は形成されていません。言うなれば。かつて、観光産業がはなやかなりし頃でも、土産物屋が乱立するほど参拝客は居なかったと言うことです。

そんな中で鬼ヶ城は一番の見所の『千畳敷』のある東口に土産物屋や食堂などが建って、観光地らしい造りになっています。
ここはかつて、南海電鉄が手を出してきた所で、近年になるまでは傍系の子会社が運営していました。そして、熊野市も『淡水魚水族館』などというものを作っていた時代もあります。閉鎖したのは二十年ほど前ですが、呼び物にしようとしたのは、なんと『ウーパールーパー』だったのです。鬼ヶ城とも黒潮とも関係なく…まさに見世

物小屋的発送です。
　もちろん『アロワナ』なんて巨大魚も居ました。居ないのはお客さんだけでした。
　そこは今物産展示即売所になっています。
　そして、『鬼ヶ城センター』という南海が長年赤字を負担して運営してきた巨大観光施設は地元の商工会議所のメンバーが運営する形になりながらも営業を続けています。
　どうみても黒字にはならない物ですが、廃墟にはできないということで、最後の尻拭いは熊野市がするようです。
　鬼ヶ城はこのセンターの所有する駐車場と三重県が所有する観光バス駐車場の二つが並んでいて、かなりの台数が駐車できます。
　かつてはゴールデンウィークなどにはそれでも順番待ちする車で列をなしたものです。勿論、世界遺産なんて無い時代ですが・・・

　今時、どこにでもあるような輸入品のご当地物記念品や長野や新潟から全国に出荷される日持ちする漬物、お決まり物のせんべいやサブレはお年寄り以外にはほとんど売れません。
　海外旅行の帰りでさえが抱えきれないほどのお土産を持った人が減ってしまった時代ですからね。時代の変化でしょうね。
　皆さんもどこかに行ってどれだけ『お土産』って物を買って帰りましたか？？
　Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2007-03-03 11:14

2007年　03月　04日

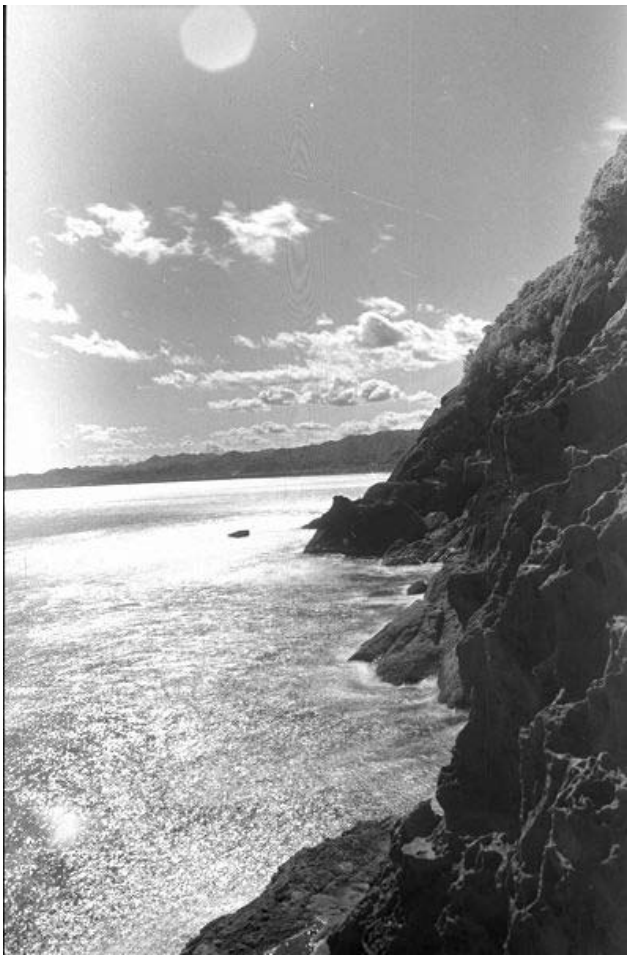
熊野の旅　ようやく復旧、通り抜けられます　鬼ヶ城

鬼ヶ城の魅力は絵葉書やガイドブックに必ず出てくる『千畳敷』だけではありません。

鬼ヶ城を作り出した自然が実感できる磯と波の争いを体感できる1Kmほどの荒磯の散策も楽しみの一つです。

散策用の遊歩道が昔から整備されてきましたが、鬼ヶ城を作り出すほどの波の威力の前には人間の作る構築物などはまるで抵抗力がありません。作っては壊され、壊されては作るの繰り返しです。

昔は資源を壊さないように、割合と低い平らな部分を結ぶようにわずかに岩を削って階段を作るような方法で作っていました。波打ち際を通るので、ほんの少しの波でも洗われ、通行不能でした。岩の裂け目の部分などは丸木を渡したのですが、流されてそんなものは無い時の方が多い状態で、飛んで渡っていました。おちればほぼ絶望で救助の仕様も無い所なのですがね…



こうした自然を観光するということは『自己責任』でやっていたのです。それが、『事故の責任』を問う風潮によって変わってしまいました。

ここ鬼ヶ城も台風の余波の時に観光客を案内して死亡事故を起こしたバス会社と鬼ヶ城を立ち入り禁止にしなかった熊野市が訴えられると言う事件が発生してからは。話がややこしくなりました。

千畳敷を通り過ぎてすぐの所の景観です。こんな所を通り抜ける遊歩道です。そして、台風の直撃を受けるとこの断崖の中ほどまでは高潮に洗われます。内海とは違い熊野

灘の波の高さと速度と破壊力は桁違いです。
　コンクリートの橋は落とされ、鉄の手すりはもぎ取られてしまいます。
　そんな状態のところへお客さんを入れると、又々訴えられますから長い間立ち入り禁止になっていましたが、最近になって補修が完了して看板が撤去されました。
　波の静かな時には通り抜けられるようになりました。ただ…本当に通り抜けるのはかなりの時間がかかりますから、お急ぎの人には無理でしょうね。まあ、この見えている部分の 200m ほどを歩いてみるとスリルもあって面白いのでは？？
Tags:熊野市 モノクロ　　by **je2luz** | 2007-03-04 11:39

2007 年　03 月　05 日

熊野の旅　PC 整備中に付き本日休載　写真のみ

Tags:熊野市　　by **je2luz** | 2007-03-05 12:39

2007年　03月　06日

熊野の旅　人間の力と自然　鬼ヶ城

鬼ヶ城と獅子岩はセットで特別天然記念物です。

同じ頃に隆起してほぼ浸食の高さが同じと言うことで指定を受けたようです。そして、『吉野熊野国立公園』が指定されたときにもきちんとその中に納まりました。しかし、この特別天然記念物の指定も少々無理やりと言う感じは否めません。

吉野熊野国立公園と世界遺産の範囲は非常に良く似ています。とにかく紀伊半島の南をすっぽりカバーする物です。

今回の指定は『文化遺産』ですから、鬼が住んでいたというような伝説では無理なので鬼ヶ城などは指定させては居ませんが…

獅子岩も鬼ヶ城も崩壊が進んでいます。

特別天然記念物というものは人の手を加えてはいけないので、獅子岩の崩壊も進むに任せるのが当たり前だと言う国の見解があるのですが、鬼ヶ城の方は随分人の手がはいっています。

遊歩道の整備に伴い、岩を削って階段を設置し、とび渡りには橋を掛け、少し高さのあるところには手すりをつけ…写真に撮ってもこの人工物が写りこむので厄介です。

しかし、この人工物は特にお咎め無しで昔からどんどん増えています。

『危険につき立ち入り禁止』にするよりはこの方がましでしょうがね。

この通路もその一つで、千畳敷から周遊路に入る所にありますが、ちょこんと上って降りると言う面倒な部分を掘り抜きにしちゃってそちらに誘導しようと言うものです。しかし、こんな人口の切り取りも年とともに風化されて段々回りに溶け込んで

ゆきます。それほどここの風化、浸食は早いのです。
　後に見える千畳敷のひさしの部分も何度か落下しています。
　地震だから…とか、雨が降ったから…ではなく、突然岩が欠けて降ってきます。今まではそれに当たった人は居ないようです。ご安心ください。
　この千畳敷には小さな売店が昔からあります。昔に比べ店が小さくはなっていますが営業を続けています。
　大きく岩が張り出したひさしの下にあるので普通の雨はほとんどかかりません。鬼が住んだと言い伝えられるだけのことはあります。しかし、大きな台風のときはこの高さまで波が来ます。勿論屋台に毛の生えたような店は流されたことはあります。売店のおばさんが命からがら逃げたこともあります。
　東口からの観光客の方は売店などが終わり遊歩道に入ったあたりで通行止めに合うことがあるかもしれません。年に数回はこんなことがありますが、無視はしないでください。舐めないでください。万一の時は100%命はありません。目の前の対岸に磯崎漁港が見えていますが、そんなときは船が出せないし、出しても磯には近づけません。
　普段はおとなしい、きれいな海が光っていますが、この鬼ヶ城を作ったのは波と風なんです。

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2007-03-06 12:36

2007年　03月　08日

熊野の旅　番外　本日より新システムにて・・・

　昨日は朝から知人の無理を聞いて松阪まで早朝の電車に乗れるように送って行きました。そのために、ここの記事も書けませんでした。
　ついでに、紀勢本線の紀州を出てからの駅でも少し写真を撮ろうかとカメラも積んでいったのですが、早朝過ぎて真っ暗闇、ずいぶんこちらに来ないとお日様が昇りませんでした。おまけに、暖冬のこの冬なのに久々の寒波とかで徹夜明けの体にはこたえる寒さなので撮る気がうせてしまいました。
　帰宅してから届いた部品でくみ上げ完成したのが、今これを書いているPCです。
　知人からの頂き物ですが、今までのは息子が大学に入ったときに買ったもののお下がりで、年代ものになっています。
　今度のは、もらい物といってもクロックは二倍以上、メモリーも2.5倍です。それなのに音はうんと静かになりました。前のやつのファンは完全にうなっていましたから…
　立ち上がり、ページの切り替え…みんな快適です。今流の人はさらに早いのでしょうが、いつもぎりぎりのシステムで動かしてきた私にはものすごく早く感じます。
　これからは、これで書きますから画像処理も楽になります。と、言っても変わらな

いでしょうがね。
　それより、辞書が新品なので少し登録しないと賢くないですね・・・

Tags:熊野古道 モノクロ JR 紀勢本線　　**je2luz** | 2007-03-08 11:59

2007 年　03 月　09 日

熊野の旅　木本の春の海

　ここ木本海岸では昔は春になると地引漁が始まり、大勢の人が集まったものです。最初に見た頃は大きなろくろ？を左右に一つずつ付けて人で廻していました。実にのんびりとした悠長なものでした。
　いつの間にか発動機に変わり発動機が網を引っ張るようになってゆきました。そして、効率は良くなったのですが、魚が取れなくなってきて地引網漁が廃れてゆきました。少しの間は『観光地引』と言う形で残っていましたが、年に数回の観光地引のために網や船の資材を維持することも出来ず、網本さんも老齢化してゆきました。
　その頃にはこの七里御浜の海岸浸食が目に見えて進行し、深刻な事態になってきました。
　対策でただ一つ有効なのは沖合いに『潜堤』を作ることです。
　水面下に作るので景観を壊さないで砂利の流失を防ぎ、高潮の勢いも殺すと言うものです。しかし、これを作れば漁礁としての役割も期待できる代わりに地引網漁はできなくなります。
　運がよかったのは、ここの地引網の漁業権が主体のはっきりしない漁協ではなく個人であったことです。つまり、廃業に近い地引の権利の買い上げ交渉がスムーズに進んだのです。
　どこの海でも、こうした工事のネックは金以上に漁業権補償問題なのです。
　今、報道されている漁業協同組合の幽霊組合員、岡に上がった漁師さんやその子孫

が組合員に残っているのもほとんどが、何かあったときに補償の分け前に預かれる可能性があるからです。大体、補償金を漁業振興に役立てずに山分けする所が多いからです。

本来、徴収するべき組合費も習慣で取らない漁協も多かったものです。

そうした、余分な物が無かったので、計画が持ち上がるとすぐに先行して漁業権買い上げが決まったのでスムーズに着工となったのです。

工事が出来るのは波が静かな春先しかありません。

毎年この時期になると海岸近くに大きなクレーンを積んだ『台船』がやってきて、巨大なテトラ？を投入します。

鬼ヶ城側から始まった工事は、今年は終点の井戸川河口付近に投入しています。しかし、完成ではなく、基礎部分の投入が終わった所です。この間、十年ほどです。このピッチだと水面下 2mまでの巨大な『潜堤』が築き上げられるのはまだ２０年も先でしょうね。

その完成を私が見ることは無さそうです。そして、そのころにはこの家も我が家ではなくなっているのでしょうね。

木本を…熊野を守るにはこの工事しかないでしょうし、この工事が打ち切られることが無い様に祈るばかりです。

『喉もと過ぎれば…』で、このところ高波の来る台風の襲撃が無いので住民の関心もなくなってきていますからね。困ったものです。痛い目にあうまで分からないのでしょうね。

この、のんびりした春の海の風物詩が消えるのは完成したときにして欲しいものです。

Tags:熊野市 モノクロ

by **je2luz** | 2007-03-09 11:52 |

2007 年　03 月　10 日

熊野の旅　七里御浜の春霞

七里御浜の　春霞
洋々として　若人の
希望に似たり　真帆片帆
・・・・・・・

三重県立木本高校校歌　　佐藤春夫作詞

と言う風に、新宮出身の佐藤春夫さんが詠まれた様にここ七里御浜は春になると熊野灘からカスミと言うより塩がたなびいて陸の方にやってきます。

お陰で、海沿いに建つ我が家などはすっかり塩漬け状態で、窓ガラスはじっとりとにがり成分が付いてきます。

はるうらら…熊野古道歩きには良い季節ですが、熊野古道に付き物の峠からの眺望はすっかり霞んでいます。

人間の目には、遠く紀州山地、吉野の山地が青くかすんで見えて結構良い物ですが、良い眺めを背景に撮って帰った記念写真は…人物ははっきり写っているのにまるで背景が写っていない…これはカスミのせいです。

人間の目は非常に補正機能が発達していますから、明るさも自動的に補正するし、霞んでいるものも適度に補正して見ています。しかし、普通のフィルムはそんなことお構いなしです。単純に明るさで反応します。だからかすんだ先は真っ白なのです。

カスミを押さえる「ヘーズカット」などというフィルターも出ていますが、これは目に見えない程度のものなのに、写真ではかすむと言うものを軽減させるもので、目に見えて霞んでいるものは手に負えませんね。

白黒なら黄色やオレンジのフィルターでかなり軽減されます。最終的には下のように赤外フィルムを使えばくっきりすっきり写せます。

しかし、トーンが独特で人物写真には向きません。それにもはや日本では生産されていません。かの小西六…さくら…コニカが作っていたのですが、コニカが消える一

年ほど前に製造中止しました。
　そして今、赤外写真とはデジタルカメラやビデオでの盗撮のものなんて観念が作られていっているようですね。残念なことです。

　これは松本峠から七里御浜越しに新宮・本宮・那智山、そして高野山方面を眺めたものです。
　まさに神々の里を一望するものです。
Tags:熊野市 モノクロ 熊野古道　　by **je2luz** | 2007-03-10 12:57

2007 年　03 月　11 日

熊野の旅　熊野市立新鹿中学校

　ここの中学校も生徒数の減少に悩む学校です。
　海岸線では一番平らな部分の多い新鹿地区にあり、新鹿湾に面した比較的なだらかな山の斜面を造成して作られたものです。
　小学校と違い、田舎の中学校は新制中学校になって全員が進学するようになり整備されたものですから、そんなに歴史が古いわけではありません。
　正門は国道 311 号線から入っていますが、地形状集落の反対側に位置しますから、徒歩通学の生徒には多分近道があるのかと思います。

　この新鹿中学校は運動場の狭い熊野市の学校の中では恵まれたほうです。
　かつては生徒数も多く、野球部、バスケット部、テニス部、バレー部など、昔はどこの学校でもあったクラブは一通り存在し、結構強いクラブもあったのですが、今ではいったい何が残っているのでしょうか。野球部は全員加入でも存在できないだけに生徒数が減ってしまいました。
　そのためかグランドは走り回ったりして足跡もあまりついていないきれいなもの

です。

　一段高くなった校舎からは、新鹿湾が目の前に見え、学び舎としてはすごくいいところです。良すぎて少しのんびりしてしまうかもしれません。
　生徒数が減少するのが見えていても教育内容の変化で、奥に見える特別校舎は十年余り前に建てられたものです。
　今の時代に即したパソコン教室を取り入れるためです。今ではほんの少しのパソコンで生徒全員に行き渡りますが、古い386や486のものはまさか使うわけにも行かず、今はどうなっているのやら…
　もちろんその時代ですからＬＡＮケーブルの敷設などはされていません。
　時代だけが変化して、おそらく現場はついていっていないのだろうと思います。ＮＥＴで遊ばせてお仕舞い…になりがちなのでしょうね。

Tags:熊野市 モノクロ　　by **je2luz** | 2007-03-11 11:52

2007年　03月　12日

熊野の旅　世界遺産はすごい！　石畳

　お隣の尾鷲には信じられないような巨費を投じてただで使える？？巨大な会館ができました。そして、ここ熊野では電信柱を全部建て替え、水道本管の敷設換え、引き込み管と止水栓の全戸取替え、電灯引込み線の引きなおし…そして、舗装を引っ剥がして石畳に…こんな大事業が一気に行われています。
　全国の自治体の首長が世界遺産指定に血道をあげる理由がお分かりでしょう。
　これなんですよね。
　自然遺産だと自然に手をつけることはできないと思ったら大間違いです。
　『自然を保護する施設』『自然に親しんでもらうための施設』『自然を解説するガイドの育成』…いくらでも考え付くのがそうした輩です。それが役に立つとか言うので

はなく、作ることに意義があると思っているのです。
　ここの石畳工事では通行止めや通行制限が続いていました。
　しかし、それによって商業活動に支障が出るとか。観光客の方にご迷惑をおかけするとかいうことはほとんどありませんでした。
　狭い本町通りなので、こんなことすれば迷惑をかけるのですが、迷惑をかけるようなお店もほとんどなくなっていますし、迷惑をかけるような熊野古道歩きの観光客なんてほとんど居ませんからね…
　それでも、進みます。立派な？物ができてきています。
　水不足、渇水の大都市、下水道もない都会東京が一気に整備されたのは『東京オリンピック』でした。これも、『世界に恥をさらすわけには行かない』と言う大義名分でした。
　そして、今日本中にぶら下がっている『大義名分の素』は『世界遺産』なのです。
　『誰がために鐘はなる』ってのがありましたが『誰がために金を使う』って状態です。　『あとは野となれ山となれ』？？？

　撮り直さないとはっきり見えませんが、長方形の人工的な石のパネルが整然と並んだものです。いかにも人工的・・・と見えるのは批判的な目で見るからでしょうか・・・一度ご自分の目で見に来てください。そして、ほめてやってください。世界遺産を勝ち取った『北川前知事』を始め今の県知事、市長さんたちを…
　カメラは**イコフレックス 2a 改良型**
Tags:熊野市 熊野古道 クラシックカメラ　　by **je2luz** | 2007-03-12 10:50